東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2009年10月2日

自殺

ムスリムの皆様。正当な、法に適った理由がないのにも関わらず人を殺害することは、最大の罪の一つです。クルアーンでは、正当な理由なく一人の人間を殺すことを全人類を殺すことである、そして一人の人間の命を救うことは全人類の命を救うことであると説かれています。生命はアッラーが与えられた最も大きな贈り物です。アッラーからの信託である生命を守り、管理し、継続させることが必要なのです。他者の生命についてと同様に、自分の生命についても望むままにすることはできないのです。この観点から、イスラームは不正に人を殺すことと同様、自らの命を絶つこともよしとせず、強く禁じています。

預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は、「山から身を投げて自殺をした人は地獄に行くことになる。そこで永遠に山から身を投げ続ける。毒を飲んで自殺した人は地獄の炎の中で手にした毒を永遠に飲み続ける。自分に鉄を刺して死ぬ人は地獄でも永遠にそれを自分の腹に刺す。」と語られ、自殺をした人が地獄に行くことを知らせておられます。

自殺は、失望、手の施しようのない困難、痛み、苦しみの劇的な結果です。自分が試練の為にこの世界に送られてきたことを信じる人、信仰の要するところに従ってアッラーを信頼し支えとする人は、決して失望したり悲観したりすることはありません。苦しみに耐え、痛みや悲しみに忍耐を示し、どのような状態にあろうとアッラーへの信仰や信頼を失わないことはムスリムの基本的な性質です。従って篤信を備えたムスリムは、現世的なことを理由としてこのような罪を犯すことはありません。この世界での苦しみやつらさは結局一時的なものです。今、耐えられないこととして人を自殺へと追いやるできごとは、しばらくすればそれほど悲しむべきものではなかったことが明らかとなり、時と共に忘れられていくのです。

親愛なるムスリムの皆様。ナイフで自殺した人の葬儀に、預言者ムハンマドが礼拝を先導しなかったことが伝えられています。しかしこれは、自殺者を罰し、他者をそのような行為から遠ざけることを目的としたものです。事実、教友たちはこの人物の葬儀の礼拝を行いました。従って自殺をした信者は、他の信者と同様に洗浄され、白布で包まれ、葬儀の礼拝を行い、ムスリムの為の墓地に埋葬されます。その後のことはアッラーのお望みに委ねられたのです。望まれれば許され、望まれれば罰せられるでしょう。